



徳嶺勝信

ベトナム南部のホーチミンは11月から5月までが乾期で、2月は乾期の半ばにあたる。日中の日差しは強いが朝晩は涼しい、夜もまだ扇風機で過ごせるので観光で訪れるには良い時期だと思う。

最近、現地で住んでいる日本人と話をすると決まって出てくるのが「日本人増えたよね」である。確かに日本人が増えた。観光や仕事で一時的に訪れるだけではなく、現地に住んでいる人が確実に増えている。それも若い人が多い。日本では若者の海外への関心が薄く、ましてや海外に出ようという若者はとても少ないという話を聞いていたが、ベトナムで受ける印象は逆である。これはベトナムが他の国と比べて住みやすいことも影響しているように思う。

特に南部のホーチミンは気候は乾期と雨期だけで、湿気が少なく、カラッとしていて日差しさえしなればわりかし涼しい。慣れてくればクーラーを使わずに扇風機だけで過ごせる日が多くある。

また、料理がおいしく安いのも

快適さ 日本の若者誘う

ベトナム

魅力だ。観光地や日本人街では沖縄とあまり変わらない値段だが、少しローカルエリアに入ると朝食は60円〜200円くらいで十分に食べられる。バインミー（フランスパンのサンドイッチ）が60円からフオー（米粉麺入りのスープ）は100円からある。

ランチも100円〜250円でご飯とスープ、野菜に加え、鳥肉か豚肉、魚から選べ、満足できる量だ。夜はローカルの海産レストランでエビ、貝、魚、カニ（ガサミ）等々を食べてビールを頼んでも千円もかからない。日本産ビールは150円、地元産ビールなら100円ほど。

ほかにもベトナムの地方料理、フランス料理、中華料理といろいろな国の料理もそろっている。特にベトナム料理はウチナンチュの味覚に合うと思う。ホーチミンは沖縄料理に使われる食材が多く、島ラッキョウ、パパイヤ、島豆腐、ミミガー、デビチ、ソーキなどもあり、調理方法も似ている。ウチナンチュは抵抗なくなじめることができる。ひったくりやスリなどの軽犯罪はあるが、重犯罪は少なく治安も良い方だ。特に外国人が巻き込まれる犯罪はとて

も少ない、安心して暮らせる国だ。
（ベトナムJES代表）

今回は韓国の大嶺浩次・世一旅行社販売課次長です。